

街歩きBOOK 田原

街あるつく田原

三河田原駅・平成 25 年



三河田原駅・昭和 39 年頃
(写真：個人蔵)

第 19 号

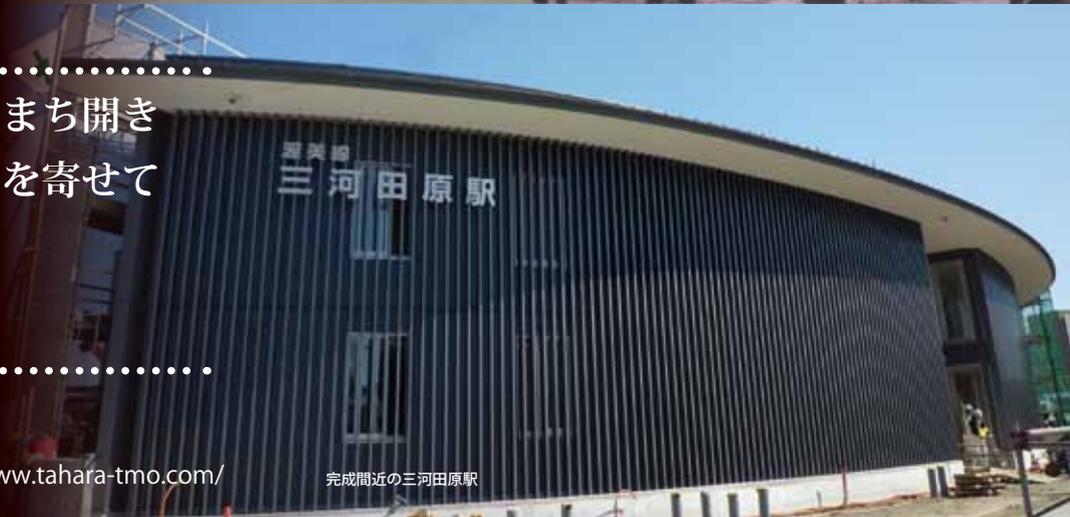
- 三河田原駅周辺地区まち開き
- 新三河田原駅に思いを寄せて
- 大谷屋食堂

平成 25 年 10 月 15 日 ㊦

発行元 / 株式会社あつまるタウン田原

所在地 / 愛知県田原市田原町萱町 1

TEL / 0531-24-2345 URL / <http://www.tahara-tmo.com/>



完成間近の三河田原駅



戦前の三河田原駅前・昭和初期
(写真：個人蔵)

三河田原駅前



現在の様子



三河田原駅・昭和 42 年
(写真：田原市博物館提供)

渥美線ホーム



現在の様子

三河田原駅周辺地区まち開き

〜新三河田原駅。いよいよ始動開始します〜

10月27日(日)、いよいよ三河田原駅が

完成し、利用開始となります。当日は駅舎

の完成および駅前大通り線の開通を記念し

「三河田原駅周辺地区まち開き」の式典が開

催されます。

また田原市民まつりや田原市制10周年記

念イベントなども同時に開催され、駅前が

賑やかな1日となります。

◎まち開き式

●日時 10月27日 日 午前9時〜

●式典 11時〜午前9時 / 新駅舎前

●くす玉割り・テープカット 11

午前9時30分 / 新駅舎前

※なお、新三河田原駅舎は、

当日の始発から利用開始と

なります。

◆同日開催「田原市民まつり」

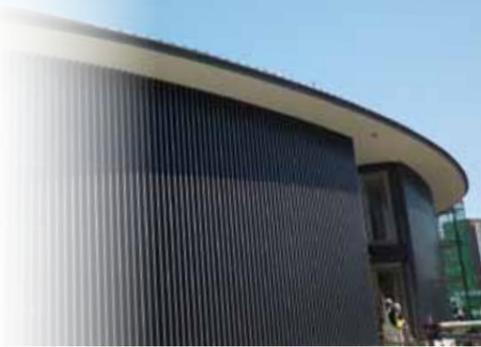
三河田原駅からはのき広場に向け、田原市の小学生、スポーツ少年団、消防団、一般の希望者など、市民の代表の方によるパレードが行われます。

詳しい内容は、田原市民まつりホームページをご覧ください。

URL / <http://tahara-fes.sakura.ne.jp/>

田原市民まつり





新三河田原駅に思いを寄せて

豊橋鉄道の社員として、渥美線の歴史を見てきた豊橋鉄道取締役の田中敏和さんにお話を伺いました。

渥美線のあゆみについて教えてください。

渥美線の歴史は、渥美電鉄(株)が大



豊橋鉄道 取締役 田中敏和さん

正11年3月に設立されたことから始まります。渥美線は、渥美半島に軍用鉄道を走らせるのが一つの目的でした。

●渥美線の歴史

昭和13年1月、高師駅から豊島駅までが開業。昭和13年6月、三河田原駅まで開業。昭和15年に黒川(田原市大久保町)まで延伸。戦時中、鉄の需要が必要となり、昭和19年、田原から黒川間のレールを撤去。昭和15年、名古屋鉄道が渥美電鉄と豊橋自動車を合併し、名鉄渥美線となる。昭和29年10月、渥美線を豊橋鉄道が譲り受け現在に至る。

駅前大通り線の発展をどのように感じていましたか？

駅前大通り線は、街全体として考え

ると、南北をつなぐ大きな役目があると思います。駅から蔵王山に向かう側を表とするならば、駅の裏の開発も進んできました。田原福祉センターの建設や渥美病院の移転、住宅地などもできたことにより、大幅に整備が進みました。そのような面からも、駅前大通り線の果たす役割は大きいのではないのでしょうか。

鉄道と田原市街地の発展についてどのように考えていますか？

田原の街は城下町として情緒がありました。曲尺手(カネンテ)であったり、坂になったりして城下町としての風情があったように思います。「街の発展」＝「鉄道の存続」です。三河田原駅で乗降する人は一日約3000人。毎日、約1500人のお客様に利用していただいています。こ

新三河田原駅舎への感想・想いを教えてください。

鉄道というのは人を運ぶだけでなく、文化も運んでいます。駅があれば必ず人が集まってきます。渥美線は小さな鉄道ですが、三河田原駅は大きな役割を担っています。今後、駅をどうやって活用していくのかを、市民のみならずとしっかりと検討する必要があると思います。

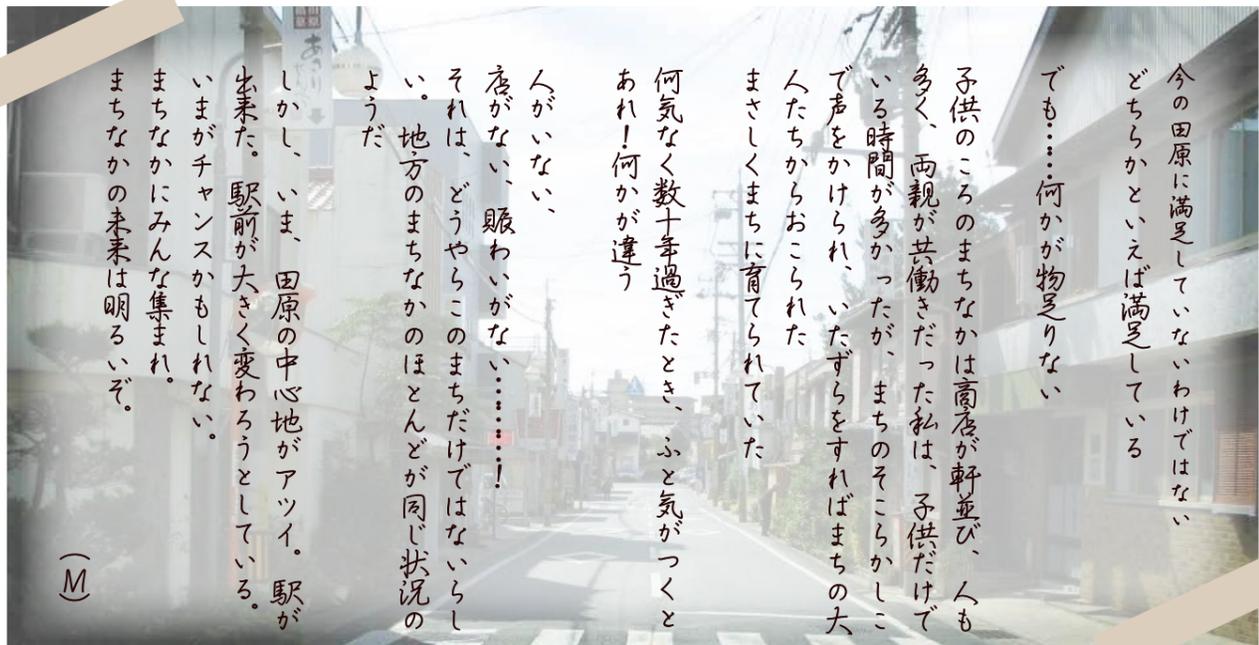
今後の田原の街なかに望むもの・期待することは？

名古屋鉄道やJR東海とタイアップして、ハイキングイベントなどを行ってききました。イベントに参加したお客様から、「街中の店舗は満席で、食事をするところがない」と言われることがありました。多くの参加者が、田原ならではの食事を楽しめるといいと思います。

冬のイルミネーションは豊橋と比べると規模は小さいですが、田原の方が綺麗だとよく耳にします。駅までつながれば、街の活性化につながっていくのではないのでしょうか。イルミネーションや夜店など、地域の方々が知恵を出し合っている取り組みは、すばらしいと思います。

鉄道会社としての今後の役割について、どのように考えますか？

10年ぐらい前から、街づくりに対して、行政の役割、地域市民の役割、鉄道など企業市民としての事業者の役割が、徐々に明確になって来ていると思います。地域とのふれあいを持つだけでなく、どんな貢献ができるのか、どんな役割が果たせるのかを考えていきたいと思っています。



今の田原に満足していないわけではない。どちらかといえば満足している。でも……何かが物足りない。

子供のころのまちなかは商店が軒並び、人も多く、両親が共働きだった私は、子供だけにいる時間が多かったが、まちのそこかしこで声をかけられ、いたずらをすればまちの大人たちからおこられた。まさしくまちに育てられていた。何気なく数十年過ぎたとき、ふと気がつく。あれ！何かが違う。

人がいない、店がない、賑わいがない……！それは、どうやらこのまちだけでは足りない。地方のまちなかのほとんどが同じ状況のようだ。

しかし、いま、田原の中心地がアツイ。駅が出来た。駅前が大きく変わろうとしている。いまがチャンスかもしれない。まちなかにみんな集まれ。まちなかの未来は明るいぞ。

(M)

二七の市 移転4周年記念祭

▼日時 平成25年10月27日(日)午前5時～
▼場所 セントファール平面駐車場およびセンターコート (田原市田原町萱町1番地)

◎イベント

- 当日お買物300円毎に抽選券進呈(午前5時頃～)
 - ガラガラ抽選開催(午前5時30分～)
 - おしるこの無料配布(午前5時30分～)先着300名
- ▼お問い合わせ
株式会社あつまるタウン田原 ☎24局2345

田原市田原町・昭和48年 (写真：田原市博物館提供)



田原町萱町セントファール 平成25年現在

◆二七の市の変遷

二七の市は平安時代に始まった六斎市が発展したもので、神戸村市場で開かれていました。室町時代に田原城が築城され城下町に移動し、明治以降は船倉橋、新町、旧渥美病院跡地、松下、セントファールと開催場所が移り変わってきました。

田原の企業・お店で活躍されている方をご紹介します！

大谷屋食堂 村井芳水さん

プロフィール

1969年、田原町萱町生まれ。高校卒業後、豊橋で修業し家業を継ぐ。



▲渥美線三河田原駅前にある鰻の老舗、大谷屋食堂 3代目の村井芳水さん。



住 田原市田原町東大浜 81

☎ 0531-22-1201

営 11:30-14:00 17:00-21:00

休 毎週月曜日

駐 10台



鰻の名店の味を受け継ぐ

渥美線三河田原駅前にある老舗「大谷屋食堂」。祖父が豊橋駅前の食堂で修業した後、昭和の初めごろ現在の場所にお店を構え、村井さんも20歳で家業を継ぐことになりました。

鰻専門店のこだわりとは

大谷屋食堂といえば『鰻』の名店。鰻は養殖の活鰻を使用し、お客様の注文があつてから、その場でさばいて焼いています。鰻の調理法にもこだわりがあり、関東風の背開きで、関西風の直火焼きの調理法は、関東と関西の間である名古屋風と呼ばれているそうです。「これが、身がふつくらで皮がパリパリになる秘訣」なのだとか。

鰻の味が昔と変わらない様に努力も怠りません。自慢の鰻のタレは、祖父が作った秘伝のレシピをそのまま受け継ぎ、創業以来、継ぎ足して使用しているそうです。

気軽に鰻を楽しんでもらうために

高価で大人の食べ物というイメージが強い鰻ですが、若い人（特に女性）にも食べてもらえるような新しいメニューづくりに取り組んでいます。鰻丼のハーフサイズや、しらすと鰻のまぶし丼は若い女性に好評。また、平成25年から『渥美半島どんぶり街道』にも加盟し、鰻のタレを使用した渥美どりのテリトロまぶし丼を提供しています。地元の渥美鶏と鰻のタレのコラボが醸し出す絶妙な丼を、ぜひご賞味ください。

街なかの活性化を目指す

取り組み

現在、新しい取り組みとして、地域の若手商業者と協力して『いじやん田原街なか弁当』を創作中です。イベント時の限定販売で、最初のお目見えは10月27日の田原市民まつりの日。新しい三河田原駅で、限定100食で販売されるそうですので、皆さんお楽しみに。

昔ながらの味を大切に

「これからも駅前で、変わらずぬ味を守り続けていきたい」と語る村井さん。土用の丑の日には、この鰻専門店の味を楽しんでみてはいかがでしょうか。

【次回のお知らせ】

次回は、大谷屋食堂さんからバトンを受け取った「うどんそばの伴喜」の伴正光さんをご紹介します。お楽しみに♪

